

POLAR BIRD ASTROLOGY

Core

2026年 太陽回帰図分析

一年のテーマを読み解く星まわり

対象期間 2026.05.06 - 2027.05.07



内: 出生 / 中: 進行 / 外: 太陽回帰

- | | | | | | | | |
|---|----|---|-----|---|-------------|-----|--------------|
| ☉ | 太陽 | ♃ | 木星 | ⊗ | パートオブフォーチュン | Asc | アセナダント |
| ☾ | 月 | ♄ | 土星 | ♁ | ドラゴンヘッド | MC | MC (ミッドヘブン) |
| ☿ | 水星 | ♅ | 天王星 | ♆ | ドラゴンテイル | Dsc | ディセナダント |
| ♀ | 金星 | ♆ | 海王星 | ♇ | キロン | IC | IC (イムム・コエリ) |
| ♂ | 火星 | ♇ | 冥王星 | | | | |



❖ Coreの今年の全体テーマ

◆ 存在感を、実証できる言葉と形にする年

2026年のCoreは、ただ注目を集めるよりも、見える場所で何を引き受けるのかをはっきりさせる年です。太陽回帰の太陽は牡牛座10ハウスにあり、この年のチャートルーラーも太陽です。さらにMCも牡牛座で、水星がMCに重なっています。これは、外から見える役割を、信頼される説明と形に残る価値へ結び直す年であることを示します。

今年のCoreは、勢いそのものよりも、見える場所で信頼を積み上げる力が問われます。 牡牛座の強さは、派手な変化よりも、続けて触れられるもの、使い続けられるもの、説明と実感がずれないものを重視します。10ハウスの太陽とMCは、その重みが内側だけでなく、エコシステムの外からも見える場所に出ていくことを示しています。

一方で、今年の太陽はASC/DSC軸とスクエアです。Coreが見せたい方向性と、外から見える印象、ユーザーや開発者やパートナーとの関係性の中に、少し緊張が生まれやすい配置です。これは対立を意味するというより、Coreが「自分たちは何者か」を強く出すほど、周囲からの期待や問いもはっきり返ってくる年だと読めます。

進行の水星が出生時の水星に重なっていることも、この年のテーマを補強しています。Coreの内側では、説明の仕方、考え方の筋道、メッセージの組み立てが成熟しやすい時期です。太陽回帰の水星がMCに近いことと合わせると、今年は単に情報量を増やすよりも、Coreの思想や仕組みを、外から理解しやすい言葉へ整えることが重要になります。

太陽回帰の太陽が進行の天王星に重なることは、革新性や実験性を年の表面に出します。ただし、これは具体的な提供時期や公式な予定を示すものではありません。象徴的には、Coreの存在感そのものに「新しさをどう扱うか」という問いが重なる年です。**変化を大きく見せるより、変化の意味をコミュニティが理解できる形にすることが、今年の鍵になります。**



❖ 今年のテーマが表れやすいCoreの活動領域

◆ 見える場所で、説明の質を上げる

最も強く表れやすい領域は、Coreの公開された言葉、見える役割、説明の設計です。太陽と水星が10ハウスにあり、水星はMCと合です。ここでは、思想、仕組み、判断基準、目指す方向を、ただ熱量で語るのではなく、外から検証できる言葉へ変えることが求められます。

今年のCoreにとって、説明は補足ではなく、信頼をつくる活動そのものです。 水星がMCに重なる年は、言葉が表舞台に出ます。曖昧な期待だけで進むよりも、「なぜそれを重視するのか」「何を見て判断すればよいのか」「どこまでが象徴的な見方で、どこからが公式な事実なのか」を分けるほど、コミュニティの理解は安定します。

太陽回帰の月は山羊座5ハウスにあり、水星とラインです。これは、コミュニティの反応や創造的な参加が、きちんとした言葉と結びつく力を持つ配置です。単発の盛り上がりよりも、投稿、議論、開発者向けの説明、学習コンテンツ、場づくりなどが、Coreの見え方を支える年になります。

◆ 大きな理念を、共有できる地図にする

9ハウスには火星、土星、海王星が集まっています。Coreにとって今年は、技術やコミュニティの内側だけでなく、より大きな理念、学習、国境を越えた理解、思想の共有が強く動く領域です。ただし、火星と海王星だけで読むと理想が先走りやすく、土星だけで読むと硬くなりすぎます。ここでは、理想を燃やしながらも、共有できる枠組みを持つことが大切です。

Coreの大きな物語は、今年、熱量だけでなく構造を必要とします。 太陽回帰の土星が進行の金星に重なることは、価値観やつながり方に責任ある形を求めます。コミュニティが何に美しさや魅力を感じるのか、どのような関わり方を信頼するのかを、雰囲気だけでなく、扱いやすい言葉や態度へ落とす必要があります。

太陽回帰の海王星が出生時の金星に重なることも、この領域を深くします。Coreに対する期待、理想、惹きつける力は強まりやすい一方で、理想が大きいほど誤解も生まれやすくなります。ここで重要なのは、夢を小さくすることではありません。理想を語る時ほど、何が象徴的な期待で、何が確認済みの事実なのかを丁寧に分けることです。

◆ 見えない整備を、表の信頼につなげる

太陽回帰の冥王星は6ハウスにあり、MCとスクエアです。これは、日々の運用、保守、検証、調整、見えにくい作業が、Coreの表の評価と強く結びつく配置です。目立つ発信だけではなく、問題を見つける力、直す力、続ける力が、今年の信頼を支えます。

表に見えるCoreの強さは、裏側の整備をどれだけ大切にできるかで決まります。 冥王星とMCのスクエアは、外から見える役割に対して、深い作り替えや圧力がかかることを示します。これは不安定さだけでなく、古い運用や曖昧な前提を見直し、より強い土台へ変えるチャンスでもあります。

木星は12ハウスにあります。これは、外からは見えにくい支援、保護、準備、長期的な余白が育つ配置です。Coreの今年は、すべてを表で語り尽くすよりも、見えないところで蓄える力も大切です。外に出す言葉と、内側で整える作業の両方がそろそろほど、年のテーマは安定します。



❖ コミュニティの空気と整え方

◆ 熱量を、落ち着いた形にする

今年のコミュニティの空気は、山羊座5ハウスの月に強く表れています。ここでいう「空気」は、実測された sentiment ではなく、太陽回帰の月から読む象徴的な反応のリズムです。山羊座の月は、ただ盛り上がるより、責任ある形、成果として残る創造性、参加のルールを求めます。

コミュニティは、自由に騒ぐよりも、ちゃんと形になる参加に安心しやすい年です。 5ハウスの月は、楽しさ、表現、創造的な参加を示します。ただし山羊座なので、その楽しさは軽いノリだけでは長続きしません。何を見れば貢献できたと感じられるのか、どこまでが遊びでどこからが責任を伴うのか、その境目が見えるほど空気は整います。

月は水星とラインで、表現や反応を言葉にする力があります。コミュニティ内の声を拾い、整理し、説明へ変えることは今年の強みです。一方で、月は土星とスクエア、海王星ともスクエアです。期待が大きくなりすぎると重くなり、理想が曖昧なままだと疲れやすくなります。

太陽回帰のドラゴンヘッド/ドラゴンテイル軸は、月と強く関わっています。これは、コミュニティの反応が、慣れた見方へ戻る力と、新しい関係性へ向かう力の間で揺れやすいことを示します。進行の月が太陽回帰のドラゴンテイルに重なることも、過去から続く反応パターンが今年の空気に出やすいことを補強します。

この配置では、盛り上がりを否定する必要はありません。ただ、空気に任せるだけだと、期待、疑問、緊張、理想が混ざりやすくなります。**Coreのコミュニティにとって今年大切なのは、熱量を抑えることではなく、熱量が向かう形をわかりやすくすることです。**



❖ Coreの今年をコミュニティで活かすヒント

◆ 何を信じればよいかより、何を見ればよいかをそろえる

今年のCoreは、信じてもらうことを急ぐより、見れば理解できる形を増やすほど強くなります。太陽、MC、水星が表の領域を強く示しているため、コミュニティが必要としているのは、熱い合言葉だけではなく、判断できる材料です。

「何を見ればこの価値を確かめられるのか」を共有することが、今年の信頼を育てます。 これは価格や投資判断の話ではありません。Coreの星まわりから見ると、今年は象徴的に、言葉、実感、運用、参加の手応えをそろえる年です。コミュニティの議論でも、期待を大きくする言葉と、確認できる材料を分けるほど、Coreらしさは安定します。

◆ 理想を小さくせず、境界をはっきりさせる

9ハウスの火星、土星、海王星は、大きな理念を扱う年であることを示します。理想や思想を語る力は大切ですが、海王星が強く関わると、期待が膨らみやすくなります。そこで土星の力が必要になります。境界を置くことで、理想は弱くなるのではなく、むしろ長く扱えるものになります。

Coreの物語は、夢を語るほど、確認できることと象徴的に見ていることを分けると強くなります。 今年の星まわりは、何かを断定するためではなく、コミュニティがどこに期待を置き、どこで現実の手触りを確かめるかを整えるために使えます。

◆ 見えない作業を、コミュニティの価値として扱う

6ハウスの冥王星とMCのスクエアは、裏側の整備が表の信頼に直結することを示します。目立つニュースや大きな言葉だけではなく、保守、検証、改善、記録、問いへの応答など、地味な作業がCoreの年の質を支えます。

今年は、見えない整備を「裏方のもの」として片づけず、Coreの価値を支える中心的な営みとして見ることが大切です。 その姿勢があると、コミュニティは一時的な盛り上がりだけでなく、長く関われる安心を感じやすくなります。

◆ コミュニティの言葉を、学習と回復の場にする

太陽回帰の金星が出生時のキロンと調和的に関わることは、関係性や学びのなかで、傷つきやすい部分を丁寧に扱う余地を示します。これは「何かが癒える」と決めつける配置ではありません。象徴的には、Coreをめぐる言葉が、ただ評価や反応で終わらず、理解を深める場にもなり得るということです。

Coreの今年を活かすには、強い主張だけでなく、わからなさを扱える言葉も必要です。質問、違和感、期待、慎重さを敵にしないこと。そうした声を整理し、学びとして返していくことが、今年のCoreの見え方を成熟させます。



作成基準

対象期間 2026年5月6日 18:58 (JST) - 2027年5月7日 00:34 (JST)

出生図

基準日時 2022年5月6日 19:35 (JST)

基準地 Bratislava, Slovakia

太陽回帰図

年度 2026年

基準日時 2026年5月6日 18:58 (JST)

基準地 Bratislava, Slovakia

方式 トロピカル / プラシーダス / True Node